

第1回 河川レンジャー大阪ブロック運営会議 議事要旨

日時：令和6年2月29日（木）15：00～17：15

場所：中央流域センター

出席者： 委員 河合、上原、北田、宮田、荒木、久保、木瀬、桑村、伊藤、
道場、杉本、辻川、山口遼太、酒井
淀川河川事務所 （管理課）辻野、角田、（福島出張所）林、（毛馬出張所）朴、
（枚方出張所）永島
河川レンジャー事務局 深澤、宝藤、瀬戸口、服部、高山 （敬称略）

1. 議事内容

(1) 審議

- 1) 河川レンジャー運営会議について
- 2) 河川レンジャー活動の成果と課題及び令和6年度河川レンジャー年間活動計画（案）
- 3) 令和6年度新規河川レンジャー展開計画（案）

(2) 報告

淀川管内河川レンジャー代表者会議開催の報告

(3) その他

今後のスケジュール

2. 決定事項

- 河川レンジャー大阪ブロックの運営会議代表、代表河川レンジャーおよび副代表河川レンジャーが以下のとおり決定された。

役職	任期	氏名	所属等
運営会議代表	2年間	河合 典彦	環境省希少野生動植物種保存推進員
運営会議代表 河川レンジャー	1年間	杉本 真一	高槻出張所管内河川レンジャー
運営会議副代表 河川レンジャー	1年間	道場 明子	枚方出張所管内河川レンジャー

- 大阪ブロック運営会議に所属する11名の令和6年度河川レンジャー年間活動計画が委員の確認を経て決定された。ただし、会議において指摘があった計画については、事務局で意見をとりまとめ、河川レンジャーに伝え、計画を見直し、再提出いただく。

- 令和6年度新規河川レンジャー展開計画（案）が委員の検討を経て、以下のとおり決定された。

令和6年度淀川管内新規河川レンジャー展開計画 大阪ブロック

管内	募集人数	重視する活動区域	活動内容等
福島	2名	全域	<p>必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。</p> <p>なかでも、<u>自然災害への備えについて地域のニーズが高く、地域住民のアンケート結果からも活動への参加希望が最も多い「治水・防災」分野を重視します。</u></p>
毛馬	2名	摂津市	<p>必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。</p> <p>なかでも、<u>淀川の生態系の保全を目的としたワンドの外来種防除など活動の継続が必要である「環境保全」分野、舟運活性化の取り組みの一環として、コンテンツの充実を図るため「歴史・文化」分野、地域と連携した川づくりに継続して取り組むため「川づくり・人づくり」分野の3分野を重視します。</u></p>
枚方	1名	寝屋川市	<p>必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。</p> <p>なかでも、<u>自然災害への備えや淀川の環境や安全な利用についての学習などで地域から高いニーズがある「治水・防災」分野、「環境保全」分野、「河川利用」分野、企業のCSR活動としてもニーズがあり、地域と連携した河川美化活動が継続的に実施されている「維持管理」分野、点野ワンドにおいて地域と連携した川づくりが継続的に実施されている「川づくり・人づくり」分野の5分野を重視します。</u></p>
高槻	2名	全域	<p>必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「川づくり・人づくり」です。</p> <p>なかでも、<u>自然観察会や環境学習が活発であり、今後は、淀川の生態系の保全を目的としたワンドの外来種防除の取り組みも必要と考えられることから「環境保全」分野を重視します。</u></p>

3. 主な意見等（○意見、⇒直前の意見に関連した議論）

（1）審議

1）河川レンジャー活動の成果と課題及び令和6年度河川レンジャー年間活動計画（案）

①桑村レンジャーの活動

- 十三地区では、2025年大阪・関西万博に向けて十三緊急用船着場の整備が進められている。工事で移植されたヨシの保全・再生を行ううえで、これまでの活動を通じて築いた人脈・地域とのつながりを活かし、今後は、地域と連携してどのように活動を展開しようと考えているのかを教えてください。

⇒地域の学校等と連携し、専門家の指導も受けながら、新北野ヨシ原の保全をしたいと考えている。アドバイザーからも助言を受けて進めていきたい。

⇒淀川のヨシを保全する活動を多くの人に認知してもらえよう取り組んでほしい。活動新北野ヨシ原清掃活動の実施にあたり、春期はヨシの芽を踏まないよう注意して実施してほしい。ヨシの生育を考慮すると、清掃時期は冬期が最も適していると考え。干満も考慮して、適切な時期を検討してほしい。

- 2025年大阪・関西万博に向けて船着場を拠点としたまちづくりが進められている。河川レンジャーとしてまちづくりへの関わりや、まちづくりに関するワークショップ等を行っているのか知りたい。

⇒今のところ、ワークショップ等には取り組めていない。

- バッタのオリンピックに適した場所は、十三以外にもある。視野を広げて活動を継続する方向で検討してほしい。JR東海道本線（京都線）上流の柴島地区は、再生干潟があり、さまざまな生き物が生息しているので、自然観察会に適していると思う。活動を継続し、地域に定着させることが大事だ。活動が地域に定着し、区民に知られることで、それ以外の人にも知られるようになり、それがまちづくりにつながると思う。

②伊藤レンジャーの活動

- 「十三干潟生き物観察会」は、地域住民に親しまれ、地域に根付いた活動である。今後も淀川区と連携して活動が継続できるよう、河川レンジャーから積極的に連絡をとり、主体となって準備・運営してほしい。

- バッタのオリンピックは、福島・毛馬出張所管内で1回は実施できるよう、担当する河川レンジャー・場所を今後調整していく。

③道場レンジャーの活動

- 自転車利用者から意見聴取して作成するヒヤリハットマップは、淀川の河川公園管理センターと連携して進めることで、精度の高いマップが作成できるのではないかと。
- これまで、河川レンジャー活動で自転車を利用した活動はなかったので、ぜひ企画・実現してほしい。
- バッタのオリンピックは、競技を楽しむだけでなく、バッタが生息する環境について学ぶことや、年度ごとに確認できた種類を記録し、環境の変化を知ること等にも取り組んでほしい。

④杉本レンジャーの活動

- ジュニア河川レンジャーに参加したこどもたちが、河川レンジャーとなるよう働きかけを継続してほしい。
- 活動を通じて、鳥飼地区河川防災ステーションの望ましいあり方について、住民から意見聴取し、地域住民に活用される施設となるよう協力してほしい。
- 「鳥飼地区川づくりプロジェクト」は、今後の整備に関する情報を管轄の毛馬出張所や河川環境課から得て、活動を進めてほしい。

⑤牧野レンジャーの活動

- 「私たちの防災教室」は、小学校3年生に限定するのではなく、受け入れ側の要望も聞いて柔軟に対応できるよう、計画内容を見直すこと。
- 「みんなの淀川きれいな川に、ストップ川ごみ清掃活動」は、水中に沈んだごみを集めるといった内容が含まれており、参加者の安全を考慮して、計画内容を見直すこと。

⑥岸田レンジャーの活動

- 「淀川探検隊 7月、8月」など親子を対象にした自然体験会については、熱中症の危険を避け、活動時期を見直すこと。また、干満を考慮して活動日を決定すること。
- 福島・毛馬出張所管内の活動予定を、管内の河川レンジャーで共有し、同時期に同種の活動が重複しないよう、調整すること。

⑦天野レンジャーの活動

- 12月および3月の「庭窪ワンドさんぽ」は、春・秋など観察に適した時期に開催できるよう、時期を見直すこと。

⑧ 兒玉レンジャーの活動

- 歴史探訪は、時期が未定となっているため、具体的な開催時期を決め、準備に着手すること。

⑨ 河川レンジャー活動全体

- 学校と連携した活動を進めるにあたり、区役所を通じて学校に働きかけを行うと、つながりをつくりやすいのではないかと。
- 新規河川レンジャーは、試行期間で、まずはステップ1の目標を決め、活動の実施を通じて目標を達成できるよう取り組んでいく。今後は、試行期間に研修などを通じて、淀川の課題について理解を深め、活動の中に少しでも解決策を取り入れ、本格的に活動を開始する第一期の年間活動計画には、ステップ3までの目標を計画していただくよう、事務局として指導していく。

以上